

ぶらたなす

NO.5

葉月

(はづき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2025.8.27

本との出会い

長かった夏休みも終わり、校内にまた皆さんの元気な声が戻ってきました。夏休みの間に、それぞれが部活動や学習、あるいは旅行や読書など、思い思いの時間を過ごしたと思います。新学期は新しい挑戦や出会いが待っていますが、少し疲れを感じるときもあるかもしれません。そんなとき、本を開けば気持ちを整えたり、前へ進む力をもらえたりします。図書館では、皆さんが新しい学期を迎えるエネルギーとなるような本をそろえています。夏に得た経験を糧に、秋の訪れを感じながら読書の実りを広げ、図書館で新しい本との出会いを楽しみながら、読書習慣を広げていきましょう。

(2-5 図書委員)

図書委員のおすすめの本

『栞と嘘の季節』

米澤 穂信：著
集英社

今回紹介するのはとある高校の図書室が舞台の物語。図書委員を務める堀川次郎と松倉詩門は返却本の中から猛毒を持つトリカブトの花の栞を見つける。密かに栞の持ち主を探し始めた二人だったが、持ち主を名乗る同級生の瀬野に奪われ、焼き捨てられてしまう。更に翌日、男性教員が中毒で倒れるという事態が発生し、学校はパニック状態に。猛毒の栞は一体なぜ作られたのか、そして瀬野は何を隠しているのか。次々に明らかになる真実にページを捲る手が止まらない青春ミステリ小説です。物語の鍵となるのは題名にもなっている「嘘」。

ぜひ登場人物の言動に注目しながら読んでみてください。(2-5 図書委員)



図書館長より

押忍！ 図書館長です。今回紹介するのは、東野圭吾（ひがしの・けいご）の『ブラック・ショーマンと覚醒する女たち』（光文社）だ。東野と言えば、何と言っても『探偵ガリレオ』シリーズだろう。07年に福山雅治（ふくやま・まさはる）主演でドラマ化され大ヒット、劇場版第1作目の『容疑者Xの献身』で興行収入49億円を叩き出したことは、今なお記憶に新しい。……いや、20年前だから、全然新しくないね。君達にとっては、記憶どころか、まだこの世に影も形もなかった時代の話でした。うーわくっそ、おじさんにはついこないだみたいな気がするんだけどなあ！

中年の嘆きはまあさておき、20年の時を隔てて東野が福山と再びタッグを組んだ映画『ブラック・ショーマン』が、9月12日から公開される。厳密には、映画化されたのは、短編集である本作ではなく、長編の『～と名もなき町の殺人』の方だが。ではなぜ今回本作を紹介したのかと言えば、私も劇場に足を運ぶ予定なので、ネタバレを避けたかったからだ。決して「本校図書館で本作を発見し、渡りに哲也と飛び付いて、6本中4本も読み終えた後、小休止がてら映画の情報を収集して初めて、映画化されたのは長編の方だった」という訳ではない。ないっတာらない。

本作では、若干悪党寄りの元マジシャンが、難事件を巧みに解決していく。物理学者とマジシャンという違いこそあれ、構造は『ガリレオ』と同じだ。私が読んだのが短編集だということもあるが、終盤のパタパタパタと音がするような物語の畳み方は、鮮やかだと絶賛するか、ご都合主義だと冷笑するか、意見が分かれるところかも知れない。

映画版では、当代きっての凄腕マジシャンにして合気道家でもあるKiLa（きら）がマジック監修を務め、カメオ出演もしている。福山もKiLaも若々しく、とても知命を超えているとは思えない。これに比べたらどんなマジックも驚異とは言えないのが、玉に瑕かもね。